

令和6年度 和歌山県立紀伊風土記の丘博物館評価の評価

<p>和歌山県立紀伊風土記の丘館長による評価</p>	<p>古墳群の保存整備・公開では、令和2年度より特別史跡岩橋千塚古墳群第3期整備事業計画に基づいて整備を実施している。令和6年度は、天王塚古墳の墳丘整備工事及び前山 A47 号墳の竪穴系埋葬施設整備工事及び古墳 2 基の修景工事等を実施し、計画に準拠して古墳の保存及び活用のための整備事業を推進することができた。工事に連動してパネル展や現場見学会を実施するなど、積極的な整備事業と博物館活動との連携を進めることができたが、一方で管理用園路の劣化など園内の良好な見学環境を維持する上での課題がある点も認識している。</p> <p>資料の収集・保存では、新館開館に向けて必要な資料収集を行うとともに、収蔵資料の台帳作成等整理を行い、新館開館に向けた準備を進めることができた。西庄遺跡出土品の重要文化財指定に向けての新たな整理作業を進める一方、大日山 35 号墳出土の重要文化財の埴輪 2 点について保存修理を完了するなど、劣化の見られる収蔵品への対応も進めている。民俗資料の台帳整理には課題を残したが、令和7年度での整理の完了を目指して現在作業を進めている。資料のデータ化及び公開の点では、継続して県立博物館・県立近代美術館と連携した和歌山県博物館デジタル化計画を推進し、その成果をホームページ上のサイトで公開した。古墳群についても令和4年度以降の取得データと分析結果を『特別史跡岩橋千塚古墳群横穴式石室緊急調査事業報告書』として刊行・公開しており、総じてデータの集積と公開の面では積極的な努力を続けている。</p> <p>調査研究・展示公開面では、特別展1回・企画展3回を実施し、それに関わる調査研究を計画通りに実施できた。研究の成果も当館の研究紀要で発表している。</p> <p>学習支援・普及活動は当館が重点を置いている面でもあり、学校教育との連携面では、昨年度と同等の団体利用を確保（但し利用生徒数は減少）するとともに、学校への出前授業に加えてリモート授業を実施するなどの新たな試みを実施した。事前に学校側の計画や要望を聴取して受け入れ態勢を準備するなどの対応をとることもできている。体験学習や講座等の教育普及イベントの参加者数も前年度より増加し、参加者からは高い評価を得ている。今後は、県外での認知度を高める事業を企画していきたい。</p> <p>館活動の周知や情報発信面では強化の努力を続けている。従来から効果が大きい個人々への紙媒体（ちらし類）の配布に加え、6年度は SNS を活用した即時的な発信に努力した。他方、館関係施設の管理面では停電事故を契機に問題も提起され、その改善に取り組んだところである。また、新館建設事業では、造成工事の第1期工</p>
----------------------------	--

	<p>事に着手するとともに、展示工事発注に係る資料収集や台帳整理をおこなった。</p> <p>以上をまとめれば、紀伊風土記の丘は、岩橋千塚古墳群の保存・整備・公開、資料館における資料の収集・保存、調査・研究、展示、風土記の丘としての学習支援・教育普及、などの諸業務を積極的に推進していると評価できる。6年度で指摘された問題あるいは認識する課題については、7年度の現在において改善が実施され、あるいは検討が行われている。</p> <p>7年度の課題は、新館建設に関わる各実施設計を着実に進め、令和10年度の新館開館に向けた作業を進めることである。また、紀伊風土記の丘としての目標は、新たな博物館と古墳群・民家を適正に保存管理するとともに、それらを一体的・総合的に活用して、多くの県民にその多様な価値を届けていくことにある。それを可能にする研究機能や企画能力の充実、多様な教育普及活動や情報発信の展開、そしてそれを実現できる人的体制の整備が課題であり、それに努力していくことが責務であると認識している。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>当館に求められている使命に対して積極的に対応している点を評価する。</p> <p>天王塚古墳の墳丘など特別史跡岩橋千塚古墳群の整備事業、新館建設に向けた準備作業など大型の事業が着実に進められる一方で、充実した特別展・企画展も開催され、情報発信も活発であり、限られた人員の中で驚くべき量の業務がこなされている。多くの業務を抱える中で、個々の学芸員の調査研究活動が活発に行われている点は高く評価され、質の高い普及活動につながっているものと考えられる。特に、天王塚古墳の整備に関する情報提供（パネル展）や整備工事見学会の開催は、工事期間限定の広報として評価できる。</p> <p>また、教育普及活動のオンライン授業はよい取り組みだと考える。来館・来場が難しい地域等の学校はもちろん、可能であれば比較的近隣の学校にも拡大することが望まれる。学芸員の負担が過大になるようであれば、オンデマンド型で対応することも検討してほしい。</p> <p>特別展・企画展では、入場者数や入場者の属性ならびに入場者からのアンケート調査結果などを分析して以後の特別展・企画展に活かしてもらいたい。</p> <p>限らえた人員のなかで、指定地内の整備、普及・啓発、調査・研究と多岐にわたる事業を展開しているが、今後の各事業の一層の推進には、人的整備が不可欠であることを付言しておく。</p>

## 1. 岩橋千塚古墳群の保存整備・公開

館長による所見	<p>令和3年度より実施中の第3期整備は、岩橋千塚古墳群整備検討会議における有識者の助言及び文化庁担当官による指導を得て事業を実施している。</p> <p>天王塚古墳では、墳丘北側の整備工事を実施した。また、紀伊風土記の丘開館時に初期整備がおこなわれた前山A47号墳では、竪穴系埋葬施設整備工事を実施し、雨水対策及び墳丘の保存環境の安定化を図った。毀損が拡大する可能性のある前山B71号墳、前山B191号墳では、石室の埋め戻しを伴う保存修景工事を実施した。</p> <p>これらの整備・修景工事においては、天王塚古墳について資料館で整備事業のパネル展を開催するとともに、整備状況及び石室の特別公開を実施し、修景工事では着工前に実施した調査の成果を周知するための石室の公開を実施するなど整備工事の進捗状況の積極的な公開と周知、博物館との連動性を意識した活動に取り組んだ。</p> <p>日常的な管理も計画的に実施し、公園の良好な環境の維持と来園者の安全管理に取り組んでいるが、近年の豪雨・台風などでの管理用道路の劣化や倒木の増加など、日常的な管理では手が回らない状況も生まれており、課題となっている。石室のモニタリングについては、『横穴式石室緊急調査事業報告書』を刊行し、今後の横穴式石室の安全管理・活用のため基礎的データを整理することができた。</p> <p>以上、計画に準拠して古墳の保存及び活用のための整備事業を推進することができた。</p>
---------	---

<p>評価部会による所見</p>	<p>当館にとって主要な事業である特別史跡岩橋千塚古墳群の保存整備・公開が、着実に進捗していることを高く評価する。大日山 35 号墳に加えて、天王塚古墳の整備も進んでおり、さまざまな古墳の姿を見せる環境が整いつつある。</p> <p>これらの事業に対して県民の理解を得るために、石室の公開や整備工事の進捗状況の公開がしっかり行われている。特に、整備工事の公開というあまり例を知らない取り組みを実施し、さらに現地に行けなかった方々のために資料館でパネル展まで開催するなど博物館との連動性を意識した活動に取り組みられた点を高く評価する。また、日常的な管理も計画的に実施し、公園の良好な環境の維持と来園者の安全管理に取り組んでいる点などを評価する。</p> <p>なお、これらは県外でも注目されている事業であり、県外に対して今後とも積極的に情報の発信をされたい。</p> <p>一方、豪雨・台風などによる自然災害は防ぎようがないものであるが、日常的な管理を常に怠らない努力も重要であろう。除草・伐木・清掃・小修理等の園内の日常管理については、指定地の大幅な拡大も見据えて、抜本的な体制見直しが必要と考える。</p> <p>また、豪雨・台風による管理用道路の傷みは大きく、さまざまな園内の利用に対して妨げとなっている。即時の解決はむずかしいが、今後の利用拡大に向けて、工法の検討をはじめ問題意識をもった準備が必要ではないかと思われる。館で認識されているとおり、天王塚古墳へのアクセスは非常に悪いので、現地に行かない方への配慮について、さらなる工夫をお願いしたい。</p> <p>また、石室のモニタリングについては、安全管理・活用のため基礎的データを整理し、活用されんことを期待する。</p>
------------------	---

①古墳群の維持管理

A. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

<p>令和 6 年度目標</p>	<p>館の業務員により月・週単位で園路や公開ゾーンを中心に草刈りや排水路整備等を計画的に実施して、園内の利用環境を維持する。倒木等急を要する場所が出た場合は優先的に実施する。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施する。</p>
<p>自己評価・課題・改善策</p>	<p>業務員による日常的な園内の管理・清掃により美観が保たれており、園内を周遊する来園者に好評である。</p> <p>台風・豪雨等による園内の土砂の流出が課題となっており、6 年度においては業務員の作業により管理用道路の数カ所の洗堀箇所の修理を行い、管理機能の維持に努力した。ただ園内は広範囲であるので、予算内における通常の補修・整備では限界がある。</p>

## B. 古墳群の日常的な保守管理

令和6年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に点検を実施する。特に草木の伐採は、その希少性などにも配慮しながら優先順位をつけて実施する。業務日誌をつけて点検箇所を確認する。
自己評価・課題・改善策	草木の伐採は、年間でスケジュールに基づいて計画的に実施している。公開古墳の周辺を中心に、草木の伐採を実施した。伐採に際しては、植物担当の専門員と調整のうえ実施しているが、今後も希少植物の把握に十分に努める必要がある。

## ②保存・整備

### A. 使命・計画に基づいた保存整備

令和6年度目標	整備検討会及び文化庁の指導を得て、策定時以降の情勢に対応した第3期整備計画の改訂を実施する。さらに、改定した第3期整備計画に基づき、令和6年度の整備事業を遺漏なく実施する。
自己評価・課題・改善策	整備検討会を2回開催するとともに、文化庁担当官による現地指導1回、オンライン協議1回を実施し、第3期整備計画に基づく令和6年度整備事業を遺漏なく実施することができた。

### B. 古墳群の整備・修景

令和6年度目標	天王塚古墳の墳丘整備工事に着手する。また、土砂流入の危険性がある竪穴系石室の整備、崩壊の危険がある古墳の埋め戻しを行う保存修景工事を実施する。事業は国庫補助金を得て実施する。
自己評価・課題・改善策	天王塚古墳については、整備計画に基づき墳丘北側の整備工事を実施した。 この他に、竪穴系埋葬施設整備工事として前山A47号墳の整備工事（雨水対策、墳丘真砂土吹付等）を行うとともに、毀損が拡大する可能性のある前山B71号墳、前山B191号墳を対象とする古墳保存修景工事を実施し、予定通り完了することができた。

### C. 展示及びその他の博物館活動への反映

令和6年度目標	整備成果を展示及び博物館活動へ反映するとともに、教育記者クラブ等への資料提供などにより県内外への広報を行う。
---------	--

自己評価・課題・改善策	古墳群の保存整備は、日常的に特別展及び企画展、講座や体験イベントに反映している。特に、天王塚古墳墳丘整備工事については、「パネル展 全長 88m！天王塚古墳を復元せよー岩橋千塚最大の古墳復活プロジェクトー」を開催して、整備工事の周知を図るとともに、整備中の墳丘と石室の公開を行った。前山 B71 号墳・前山 B191 号墳の古墳修景工事においても、着工前に実施した清掃及び測量調査の成果を周知する目的で石室の現地公開を実施し、延べ 91 名の参加を得た。（③でも記述） 今後も県外に向けた広報活動を進めていきたい。
-------------	--

#### D.学術的公表（報告書等）がなされているか

令和 6 年度目標	年報・紀要に学術的公表を含む報告を掲載する。
自己評価・課題・改善策	『令和 6 年度紀伊風土記の丘年報』第 51 号・『紀伊風土記の丘研究紀要』第 13 号を刊行し、館の活動を報告するとともに、古墳群及び考古資料、民俗資料に関する研究を公表した。

#### E.古墳群の管理

令和 6 年度目標	古墳カルテの更新、石室のモニタリングを計画どおり実施する。
自己評価・課題・改善策	古墳カルテは一部のみの更新に留まった。石室のモニタリングは、横穴式石室デジタルデータを取得しながら調査を実施し、『横穴式石室緊急調査事業報告書』を刊行した。報告書は、今後の横穴式石室の安全管理・活用のため基礎的データとして活用する。今後、計画どおりの頻度でのモニタリングの実施を目指す。

#### ③公開・活用

##### A. 計画的な公開

令和 6 年度目標	公開古墳は、引き続き石室等を安全に見学できるように対応する。非公開古墳は、期日を定めていずれかの石室を 1 回以上公開する。
自己評価・課題・改善策	「古墳ガイドツアー①」の実施において前山 A 地区の古墳とともに前山 A67 号墳の石室の特別公開を実施し、20 名が参加した。また、「古墳石室公開」では天王塚古墳の整備状況及び石室の特別公開を実施し、県内を中心に福岡県から東京都までの 83 名の参加があった。これらの公開について、安全を確保し実施することができた。前山 B71 号墳・前山 B191 号墳の古墳修景工事においても、工事の実施前に石室の公開を行い、91 名の参加を得た。

##### B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査

令和 6 年度目標	園路設置の意見箱を活用するとともに、来館者へのアンケートで整備に関する意見及び満足度とニーズの把握に努める。
-----------	--

自己評価・課題・改善策	来館者を対象とする整備に関するアンケートを資料館に新規に設置した。回答を集計した結果、天王塚古墳及び大日山 35 号墳の整備のほか、保存目的の整備である古墳修景工事への高い関心を示す意見が複数認められた。今後もアンケートの実施に努め、事業計画の参考にしていく。
-------------	--

C. アンケート調査結果の公開活用事業への反映

令和 6 年度目標	アンケート分析結果の必要な内容を抽出し、必要に応じて次期整備計画に反映する。
自己評価・課題・改善策	アンケートの結果、大日山 35 号墳の出土品及び整備への高い関心を示す意見が多く認められた。引き続きアンケート実施により意見を集約し、古墳群の整備計画反映への検討を進める。

## 2. 資料の収集、保存、保存環境の整備

館長による所見	<p>資料の収集については、新館建設の展示計画に基づき民俗資料を中心とする寄贈の受入れを積極的に進める等、新館開館を見据えた計画的な活動を展開することができた。西庄遺跡出土資料の重要文化財指定のための作業も、新館が開館する令和10年度の指定を目指して計画的に進めている。</p> <p>資料の保存・整理については、館蔵品の展示室や収蔵室・新収蔵庫への移動を見据え、計画的に考古資料及び民俗資料の台帳作成等資料整理を進めた。民俗資料の整理が当初計画より進行が遅れた点に課題を残したが、令和7年度の整理完了を目指して作業を進行させているところである。接合部の劣化がみられた重要文化財大日山35号墳出土品のうち、3分割焼成の家形埴輪と胡籐形埴輪の2点について保存修理を完了することができた。</p> <p>資料のデータ化及び公開の点では、県立博物館・県立近代美術館と連携した和歌山県博物館デジタル化計画を実施し、その成果をホームページ上のサイトで公開した。</p> <p>今後も新館建設との連動性をもちながら収蔵・保存を進め、県教育委員会と協力して良好な保存環境を確保していくとともに、資料データの積極的な公開・活用を進める予定である。</p>
評価部会による所見	<p>資料の収集、保存・整理はほぼ予定通り進んでいると思われる。これらの計画的な実施は、新館開館にむけて重要なことであり、楽しみな点である。</p> <p>民俗資料の台帳作成が30パーセントにとどまったことは少し心配であるが、将来の活用のために充実した内容の情報を盛り込むことを優先してほしい。</p> <p>資料データのデジタル化も重要な取り組みであり、さらなるデータ蓄積に期待したい。ただし、ホームページ上の収蔵品データベースについては、考古資料と民俗資料で表示形式が違いすぎるので、調整が必要である。また、収蔵品データベースの考古資料の写真では、一目でサイズ感がわかるような工夫をするなどの改善が必要である。</p> <p>大日山35号墳出土の中心となる形象埴輪の保存修理も一部が完了し、新館での公開に向けた資料の整理は順調に進んでいる。</p> <p>図書の収蔵について、寄贈図書の再整理に基づく使用頻度を考慮した保管の検討と実施は、良い視点である。</p>

## ①資料収集

### A. 適切な手続きに基づく資料の収集

令和6年度目標	適正な手続きに基づき、新館建設の展示計画に鑑みて資料を積極的に収集する。令和5年度に定めた受贈基準並びに資料収集方針に基づき、新館展示・収蔵資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善策	新館展示計画に基づいた民俗資料の収集活動を実施するとともに、受贈基準並びに資料収集方針に基づき考古資料4件、民俗資料8件の寄贈を受けた。また、寄託資料1件の新規受託、寄託資料230件の期間更新を実施した。

## ②資料の保存

### A. 資料の保存環境は適切か

令和6年度目標	温湿度データを年間通じて取得する。壁面ケース等湿度管理の出来ない展示ケースで異常値が確認された場合は、その解消に向けて柔軟に対応を行う。
自己評価・課題・改善策	年間を通して温湿度データを取得した。特別展等で借用する資料のうち、特に温湿度管理の必要な金属製品・木製品、文献史料等についてはエアタイトケースを使用した。

### B. 資料の保存処理

令和6年度目標	保存処理の優先度に応じて資料を区分し、それぞれに必要な対応をとりつつ保管する。保存処理が必要な金属器等資料のリストのうち、保存処理の優先度高い資料は予算状況に応じて順次保存処理を実施する。保存処理の優先順位が低い資料はRPシステムにより応急措置し、金属収蔵室で保管する。
自己評価・課題・改善策	金属製品は、金属収蔵室で保管している。保存処理未実施資料等のうち、考古資料20点をRPシステムにより脱酸素・低湿度での保管環境を確保した。今後は、令和8年度までに保存処理未実施資料のRPシステムによる保管作業を完了させる。

### C. 資料の整理

令和6年度目標	施設再編に伴う収蔵資料の移転に対応するため、収蔵資料の再整理を進める。西庄遺跡の出土資料は、令和6年度中文化庁文化財調査官による整理指導を1回以上実施し、令和10年度の重要文化財指定に向けて作業を進める。
自己評価・課題・改善策	西庄遺跡出土資料の重要文化財指定のため、リスト確認・修正、追加リストを作成し、文化庁文化財調査官による整理指導を2回受

	<p>けた。令和7年度にも文化庁文化財調査官による重要考古資料に係る整理指導を受け、令和10年度の重要文化財指定を目指して作業を進める予定である。</p> <p>また、接合部の劣化が進んでいる重要文化財大日山35号墳出土品の埴輪2点（家形埴輪、胡籙形埴輪）について、令和4年度から専門業者に委託して解体修理を行い、完了した。その他の収蔵品についても、新館建設を見据え適正に整理を進めている。</p> <p>但し、民俗資料については整理・台帳作成が当初予定より遅れ、課題を残した。この点については令和7年度に処理すべく、作業にかかっている（③—Bでも記述）。</p>
--	--

### ③資料の管理

#### A. 資料の点検

令和6年度目標	毎日、開館前と閉館時に展示室及び収蔵施設の資料について目視点検チェックを行う。
自己評価・課題・改善策	展示室・収蔵庫内の資料及び展示・収納ケース内に異常のないことを目視で点検するとともに、機材を用いて温湿度を点検した。

#### B. 資料の管理（台帳、データ）

令和6年度目標	令和8年度までに台帳・データベースを作成し、管理を行う。考古資料は台帳未作成のコンテナ64箱の台帳作成を実施する。民俗資料は、新館展示に向け収集する寄贈・寄託を含む未整理の資料約2,430点のうち、1,500点の台帳作成を実施する。
自己評価・課題・改善策	考古資料は台帳未作成のコンテナ161箱（新規受贈分を含む）のうち59箱の台帳作成を実施した。民俗資料は館蔵の未整理資料約2,430点のうち、739点の台帳作成と、新収蔵候補資料55点のデータ整理を行った。整理未完了分については、令和7年度に継続して実施する。

### ④資料の活用

#### A. 他機関への資料の貸出

令和6年度目標	他機関への収蔵文化財の貸出を2件以上行い、収蔵文化財の活用を推進する。
自己評価・課題・改善策	岩出市教育委員会へ根来寺遺跡出土品、和歌山市立博物館へ上野廃寺出土品、県指定文化財大同寺蔵骨器、東京国立博物館・九州国立博物館へ重要文化財大日山35号墳出土品の貸出を実施した。また、写真類の貸出も実施した。

## B. 図書の収蔵

令和6年度目標	報告書等の寄贈図書について再整理を行い、使用頻度の低い図書を収納しスペースを確保することにより効率的な活用ができるよう整備するとともに、新館開館時の配架の検討を行う。
自己評価・課題・改善策	寄贈図書は、押印、リスト登録を行って、活用している。使用頻度の高い図書は、常時活用できる状態で保管し、活用頻度の低い図書は収納のうえ、保管している。令和7年度に新館開館時の配架について検討し、対象図書の入力作業を実施する。

## C. 資料のデータベースの公開

令和6年度目標	館収蔵品や古墳群の三次元データ取得や高精度写真撮影を積極的に進め、ホームページ上に設置したサイトに100点以上のデータ掲載し、公開を促進する。
自己評価・課題・改善策	<p>前年度と同様に、県立博物館及び県立近代美術館と連携して和歌山県博物館デジタル化計画を実施中で、資料の3次データ取得等を進めながら、ホームページ上にサイトを公開し、考古資料約100点のデータベースの公開を実施した。ホームページ掲載写真は、申請を要さず利用可能とすることで、写真の利用促進を期待している。</p> <p>このほか、前山A2号墳、前山A32号墳、前山A56号墳の3基の古墳の三次元データの取得を行った。また、令和4年度以降の取得データとともに分析結果をまとめ、『特別史跡岩橋千塚古墳群横穴式石室緊急調査事業報告書』として刊行・公開した。</p>

### 3. 調査・研究及び展示・公開

<p>館長による所見</p>	<p>特別展、企画展開催及び事前準備に伴う調査・研究については、ほぼ計画どおり実施することができた。館外の機関等との共同研究の実施には至らなかったが、館の教育普及活動を通しての自治体・大学関係者との研究交流の点では成果を得ることができた。</p> <p>特別展は、「数多の古墳を築く」と題して、古墳時代後半期に群集墳が出現した歴史的背景と、岩橋千塚古墳群や和歌山県域の古墳築造の特色を探る展示を実施した。企画展は、「和歌山フェイクアワードー考古学におけるフェイクの世界ー」、「たがやす」、「古代人のよそおい」と題して、考古2回・民俗1回の展示を行った。以上の展示では、展示方法や解説面での改善を図るとともに、展示資料の人気投票の実施や、体験型展示の導入など、来館者の興味をかきたて滞留時間を増やしてもらおう取り組みを試みている。</p> <p>展示期間を含む年間の資料館入館者は、前年度比5%増と、目標を達成したものの、依然としてコロナ禍以前の入館者数を大幅に下回っている。他方、後述するように（4で詳述）、本館で実施する各種の体験講座への需要は依然として高く、それが本館の魅力の重要な要素を構成している点も事実である。入館者増に繋がる魅力ある展示の展開に向けての調査・研究・企画の向上に取り組むことは当然の目標であるが、それを多様な体験講座などの他の館事業と併行して円滑に展開していくためのマンパワーは、学芸部門の現在の人的配置ではほぼ限界に近い。新館開館後の適正な展示・公開のあり方を見据えながら、調査・研究と展示・公開・活用がうまく連動した水準の高い博物館活動を実現できる環境をどう整えていくかが課題である。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>特別展、企画展開催及び事前準備に伴う調査・研究については、少ない人員と限られた時間のなかで積極的に取り組んでいる。</p> <p>特に、「和歌山フェイクアワード」という企画展は斬新であり、大変意欲的な展示であったと高く評価したい。本件のように、考古学・民俗学の枠に留まらない分野からの展示についても、今後検討されることに期待したい。</p> <p>また、特別展の見学者のうち39%が県外者であることは、高レベルの内容であることを反映しており、高く評価する。</p> <p>これらはアンケート調査を通して入館者の満足度やニーズを把握した結果であり、アンケート調査は今後とも実施してほしい。</p> <p>また、『特別史跡岩橋千塚古墳群横穴式石室緊急調査事業報告書』は大規模な古墳群の全容をはじめ総括的にまとめた内容であり、学術的にも高く評価される。</p> <p>館外の機関との共同研究は、館学芸員に留まらず、域内市町村の</p>

	<p>専門職員の研鑽にもつながることなので、新館での特別展・企画展の「準備」という位置づけなどによって、ぜひ実現できるように検討していただきたい。</p> <p>学術成果の公表については、『紀伊風土記の丘研究紀要』だけでなく、市民一般にもわかりやすい内容で、ホームページ上でのブログ等アクセスしやすい公開の方法を検討してもらいたい。</p> <p>また、ホームページを通じた所蔵品データの発信内容は充実しているが、3次元画像へのリンクが直接的でなく、また3次元的な見方の面白さなどの説明もないため、一般には利用がわかりにくいと考えられ、工夫が必要である。</p> <p>資料館入館者数について、入館者増の取組みは重要だが、人口減少とくに子どもの数が激減している以上致し方のないことである。人口減少比との相対的な評価、満足度などほかの切り口からの評価方法を模索される必要があるのではないだろうか。こうした点は、紀伊風土記に留まらず、県立の他施設、域内の博物館などとの共通課題として、指標を設定するような取組みがあってもいいように思う。</p> <p>また、多様な活動に対して、人員配置は不足している。多くの貴重な資源を有効に活用してゆくためにも、資料整理保管、調査研究、展示、体験にある程度役割分担が可能な体制が必要である。</p>
--	---

### 3-1. 調査・研究

#### ①調査

##### A. 計画に基づいた調査・研究

令和6年度目標	各機関にて、文献・資料調査等、展覧会に関連した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善策	令和6年度特別展「数多の古墳を築く」の展示に関連する資料調査及び研究を行った。この他、各企画展関連の調査研究、令和7年度特別展「遙かなる古墳時代の海へ」の展示準備に伴う資料調査、研究を行った。展覧会に係る調査研究以外の基礎的調査や研究を実施可能な体制整備が今後の課題である。

##### B. 外部機関・団体等との共同調査・研究

令和6年度目標	他業務とのバランスをみて、他館及び（公財）和歌山県文化財センター等の関係組織との共同イベントや共同研究の実施を積極的に検討する。
自己評価・課題・改善策	6年度は他業務の比重が大きいことから、関係組織との共同イベント及び共同研究は実施できなかった。一方で、当館イベント「古墳時代の塩づくり」による一般参加者及び自治体専門職員・大学関

	係者らとの共同実験の成果を、土器製塩に関する実験考古学的研究として研究紀要にまとめるなど、教育普及事業を調査研究に昇華させる取り組みを行った。
--	---

②調査・研究成果の活用

A. 展示及びその他の博物館活動への成果の反映

令和6年度目標	調査・研究成果を特別展等で活用し、広く県内外に広報する。
自己評価・課題・改善策	各企画展の展示講座とともに、特別展シンポジウム1回、講座を3回、展示解説を3回開催し、展示内容を広く県民に広報した。今後も、展示への理解が深まるよう努め、展示関連イベントを企画する。

B. 学術的公表（館研究紀要、学会誌等）

令和6年度目標	館研究紀要等に調査・研究成果を公表する。
自己評価・課題・改善策	『紀伊風土記の丘研究紀要』第13号を刊行し、調査研究成果を8本掲載した。このほか、『紀伊風土記の丘年報』第51号を刊行し、整備事業に係る調査成果1件を掲載した。

3-2. 展示・講演

①常設展

A. 計画的な展示替え

令和6年度目標	特別展終了後の展示替え期間を利用し、岩橋千塚古墳群、考古資料による通史及び県内の民俗文化財を把握できる展示となるよう心がける。
自己評価・課題・改善策	企画展・特別展以外に、ロビーを利用してミニ展示4回を実施した。

B. 計画的な保守点検

令和6年度目標	開館前にチェックシートを用いた点検を実施する。また、重要文化財をはじめとした資料の防犯対策のため、監視カメラでの管理を適正に行う。
自己評価・課題・改善策	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施し、展示ケースの施錠を確認した。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和6年度目標	アンケートや聞き取り調査により入館者の動向を把握する。より多くの来館者に記入してもらい、統計的な分析が実施できるよう、アンケートの内容や設置場所、提示方法の工夫を行う。
自己評価・課題・改善策	設置場所を改善したり、受付時に用紙を手渡ししたりして、アンケートの回答数の増加を図った。

#### D. 入館者の常設展示に対する満足度

令和6年度目標	アンケート内容を検討し、満足度とニーズの把握に努める。その上で、展示内容の変更やスポット展等の内容を検討する。
自己評価・課題・改善策	常設展については、毎月1日の無料入館日にアンケートを実施している。常設展については、重要文化財の埴輪に高い関心を示す傾向が確認できる。今後も、より多くの来館者の意見を聞けるようアンケート方法等を工夫していきたい。

#### ②特別展・企画展

##### A. 展示の内容、出品資料、構成、工夫等

令和6年度目標	例年と同様に特別展1回、企画展3回を実施する。
自己評価・課題・改善策	特別展は、「数多の古墳を築く」と題して、6・7世紀に近畿地方各地で成立した大規模群集墳や近接して立地する大型古墳を紹介し、群集墳が出現した歴史的背景と和歌山県域の特色を探る展示を実施した。企画展は、模型・複製・偽造品から考える展示「和歌山フェイクアワードー考古学におけるフェイクの世界ー」、紀ノ川流域の農業の姿を提示する「たがやす」、古代の装飾を中心とした「古代人のよそおい」という3つの展示を行い、本館が主対象とする考古・民俗の両面の展示を行った。

##### B. 図録・パンフレット等の作成

令和6年度目標	特別展では図録、ポスター、リーフレット、企画展ではリーフレット、展示目録及び展示概要シートを作成する。
自己評価・課題・改善策	特別展では図録、ポスター、リーフレットのほか、シンポジウムの子稿集を作成し、企画展ではリーフレット、展示目録等を作成し、配布した。

##### C. 特別展見学者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和6年度目標	アンケートや聞き取り調査により来館者情報を把握する。より多くの回答数を確保し統計的な分析が実施できるよう、内容や設置場所、提示方法の工夫を行う。
自己評価・課題・改善策	特別展アンケートは、アンケート用紙と投函用の箱を設置して収集した。37%が県外参加者で、大阪府、奈良県など近隣府県からの見学者が多い。小・中学生は37%と一定数を占めた。また、情報入手はチラシ・ポスターが28%、ホームページが6%であり、紙媒体の配布に一定の効果が認められた。

D. 特別展見学者の展示に対する満足度

令和6年度目標	アンケート内容を検討し、満足度とニーズの把握に努める。その上で、次年度以降の展示企画の内容を検討する。
自己評価・課題・改善策	アンケート調査の結果、展示企画内容については、高校生以上で「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」という回答が80%を占めた。研究者等によるシンポジウム及び関連講座では、「面白い」「とても面白い」の回答が90%を占めた。前者においては展示方法や解説の工夫が、後者においては新たな研究視点からの議論のテーマ設定という点が、それぞれ好評を得た背景にあると受け止めている。

③県民ニーズに即した運営

A. 資料館入館者数：当該年度の入館者

令和6年度目標	前年度比5%増（13,100人）を目指す。
自己評価・課題・改善策	入館者13,552人（前年比：1,063人増・108.5%）と増加し、目標を達成できた。しかし依然として令和元年度（新型コロナ以前）の約7割の水準にとどまっている。次年度はチラシ等による積極的な周知を図り、入館者数を増加させていきたい。

B. 入館料収入。当初計画に対する実際の収入達成率

令和6年度目標	前年度比5%増（752千円）を目指す。
自己評価・課題・改善策	入館料収入は、755（千円）となり、目標は達成できた。

C. 調査結果を受けた運営

令和6年度目標	イベント開催完了ごとにイベントマニュアルの修正を行い、運営方法の改善を行う。参加者数やアンケート分析結果をもとに、イベント種別・開催回数の変更を行う。
自己評価・課題・改善策	イベントマニュアルを活用し各種イベントを実施しながら適正な運営に努力した。特別展のアンケートにみる来館者からの評価は、その努力が反映したものと考えている。今後もアンケート結果及び館内利用者の意見から得られる改善点を取りまとめ、イベントの種別・開催回数等、館内運営の向上に努める。

#### 4. 学習支援・教育普及活動・人材育成

<p>館長による所見</p>	<p>学習支援・教育普及活動をコロナ禍以前の状態に近づけるべく活動した。</p> <p>学習支援活動の面では、小学校を主とする団体の利用校数は、90校と前年度と同数を確保した。但し利用人数は減少しており、背景には1校当りの生徒数の減少がある。他方、出前授業の校数は増加し、新規に企画したオンライン授業も西牟婁・東牟婁両郡の小学校を対象に実現できた。出前授業では、6年度より開始された「出張学び講座事業」による申し込みが多くみられる。中高等学校生を対象としたインターンシップの受け入れ数も大幅に増加した。</p> <p>これらの学習支援活動においては、学校現場の教員や校長への聞き取りをもとに事前の活動内容や要望を把握し、実際の活動の事前準備や支援に役立てようとする細かい努力を行っており、それが利用校数の維持や新規の活動への参加に現れていると受け止めている。今後も、これらの多様な学習支援活動の継続に取り組むことが必要と考えている。</p> <p>講演会・博物館講座・展示解説については、いずれも実施回数・参加者数の目標を達成し、参加者からも高い評価を得ることができた。</p> <p>体験学習などの教育普及活動においては、実施回数は前年度を維持し、参加者数は増加した。参加者からは高い評価を得ており、当方面の活動が当館の評価と深く関わっていることがあらためて確認される。</p> <p>人材育成の面では、博物館実習・インターンシップ・教員研修の受入やジュニア学芸員の募集・発表・展示、ボランティア養成講座等を実施した。</p> <p>今後は新館建設に伴う令和8年度からの休館期間及び、令和10年度の新館開館後の活動計画について検討を進めていく。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>少ない人員と限られた時間のなかで、多様な活動が展開されており、高く評価する。特に、工夫を凝らした体験学習及び講演会の開催が功を奏して、着実な利用者の増加につながっているものと評価される。</p> <p>一方、「HANI—1選手権」は別として、全体的に各種活動の実施は地味な印象を与えるが、将来のさらなる入館者の増加につながる。さらに実施内容を工夫して、継続してほしい。</p> <p>ただし、学校が縮小していく以上、団体ということでは、生涯教育関係や観光会社との連携が重要になっていくのではないだろうか。特に新館がオープンしたら、県内の住民だけでなく観光客も多</p>

	<p>く訪れることは必至である。現時点から、そうした組織からの受け入れ態勢の準備をおこなってはどうか。また、観光ツアールートの設計など国内外のニーズに対応したメニューづくりについても検討してはどうか。</p> <p>ボランティアについては、ボランティア数の漸減傾向が懸念されるが、ボランティア活動をすることのメリットを年代ごとに具体的に示すことが必要と考える。</p>
--	--

### ①学校・団体の利用

#### A. 学校・団体の受入数、受入人数（一般団体を除く）

令和6年度目標	前年度（91団体・4,879人）以上を目指す。
自己評価・課題・改善策	来館は90団体（前年比：1減）・4,081人（同：798人減・83.6%）となり、団体数は事実上目標を達成したが、人数は目標を下回った。少子化の影響により、1団体あたりの人数が減少していることが背景にある。

#### B. 出前授業の件数、利用者数

令和6年度目標	前年度並み（19団体）を目指す。
自己評価・課題・改善策	出前授業の実施は33団体（エキスパート職員派遣事業・出張まなび講座事業を含む）と前年度（19団体）を大幅に上回り、西牟婁郡・東牟婁郡に所在する小学校を対象とするオンライン授業は4校から申し込みがあるなど、学校の教育活動との新しい連携活動を軌道に乗せることができた。令和8年度からの休館期間中においては当該事業の比重を高める計画でいるが、各団体の授業計画・配当時間などの個別性に対応できる複数の授業内容の組立や、授業数の増加に対応できる体制整備を検討していく。

#### C. 職場体験実習・職場体験学習の受入数

令和6年度目標	高校生及び大学生インターンシップ、就業体験、実習訓練等について、人員、日程等を勘案し、可能な範囲で各数名程度受け入れる。
自己評価・課題・改善策	中学生・高校生職場体験など42名（前年比：10名増）、高校生インターンシップ8名（前年比：6名増）を受け入れ、この点でも学校教育との連携を強めることができた。また、大学生インターンシップ1名を受け入れた。

D. 利用者の満足度、ニーズ

令和6年度目標	遠足等実施前後に教員等から申込方法、遠足の目的やカリキュラム上の位置づけ等の意見を聴取する。また、学校訪問の際にも、校長等から聞き取りを行う。これらの意見聴取から遠足実施の評価や新たなニーズを把握し、申込方法や運営方法の改善を行う。
自己評価・課題・改善策	<p>中堅教諭等資質向上研修において参加教員を対象にしたワークショップ及びアンケートを実施し、学校側の視点から展示、施設、遠足利用における課題の洗い出しを実施した。</p> <p>事前打ち合わせ及び体験実施後にヒアリングを実施した。事前の打ち合わせは学校団体を迎え入れる当館の準備態勢に反映できている。通年でみると秋期における遠足の来校数が減少しているが、この背景にはバス借上げ予約の困難さや、学校側における業務体制の見直しなどの要因が想定された。</p> <p>今後も意見の聴取を行い、児童生徒、学校の学習やねらい等のニーズに応じた学習支援を行い、来校数の増加につながる運営方法の改善を検討する。</p>

②講演会・博物館講座・展示解説等

A. 講演会・博物館講座・展示解説等の回数

令和6年度目標	前年並みの20回以上、実施する。
自己評価・課題・改善策	21回の講座、シンポジウムを開催し、目標を達成した。このほか、特別展の展示解説を4回実施した。

B. 講演会・博物館講座・展示解説等の参加者数。

令和6年度目標	募集定員の50%以上（前年度並み）を目指す。
自己評価・課題・改善策	712人（前年比：125.1%、講座、フィールドワーク含む）と参加者は微増であったが、割合で見ると募集定員の64%の参加があった。ボランティア養成講座への参加は少なく、広報等工夫が必要である。

C. 参加者の満足度、ニーズ

令和6年度目標	アンケート及び、講演等終了後直接聞き取りにより把握し、申し込み方法や運営方法の改善を行う。アンケートでは高満足度（5区分のうち上位2区分）80%以上獲得を目指す。
---------	---

自己評価・課題・改善策	講座・講演会ごとにアンケートを実施した。講座・講演会全体における満足度（5区分のうち「とても面白い」「面白い」を選択）は92.8%であり、非常に高い満足度が得られた。この満足度を維持していくとともに参加人数増加を目指していく。
-------------	---

### ③体験学習・ワークショップ・関連行事等の体験的プログラム

#### A. 体験学習等の回数

令和6年度目標	前年並みの45回以上、実施する。
自己評価・課題・改善策	モノづくり体験イベント37回、フィールドワーク11回の合計48回を実施した。モノづくり体験イベントのうちうち5回は1日2回開催している。

#### B. 体験学習等の参加者数

令和6年度目標	募集定員の80%以上（前年度目標並み）を目指す。
自己評価・課題・改善策	夏休み期間中のイベント告知を県内全小・中学生に行った結果、参加者数は1,588人（前年比：116.7%）と増加した。募集定員に対する参加者割合は87%で目標を上回った。

#### C. 参加者の満足度、ニーズ

令和6年度目標	アンケート及び参加者に直接聞き取りにより把握し、申し込み方法や運営方法の改善を行う。アンケートでは高満足度（5区分のうち上位2区分）80%以上獲得を目指す。
自己評価・課題・改善策	体験学習イベントごとにアンケートを実施した。体験学習イベント全体における満足度（5区分のうち「とても面白い」「面白い」を選択）は96.1%であり、非常に高い満足度が得られた。「第15回HANI-1（はにわん）選手権」は、214点の作品がエントリーされ、「小学生以下の部」・「中高生の部」・「一般の部」・「ヘビー級の部」の各部門の合計で875票の投票があった。参加者の満足度とともに、投票に加わる来館者にとっても楽しむことのできるイベントとして、相乗効果が期待される。 今後も、他のイベントも含め、参加者のニーズや満足度等のアンケート結果を分析し、引き続き広報、イベント内容・回数等改善の検討を進める。

### ④博物館実習

#### A. 博物館実習生・インターンシップなどの受け入れ

令和6年度目標	人員や日程等を鑑み、可能な範囲で博物館実習生・インターンシップなどを受け入れ、考古学・民俗学に興味を持ってもらうとともに、仕事に対する意欲、関心を高めてもらう。
---------	--

自己評価・課題・改善策	8月に博物館実習5名、大学生インターンシップ1名の受け入れを行い、実際に収蔵資料に関するミニ展示について企画・展示作業を行った。
-------------	--

⑤ボランティア

令和6年度目標	ボランティア養成講座により新たなボランティアを募集・養成するために、養成講座の実施・広報時期などを再検討する。活動中のボランティアの育成及び活動の支援並びに連携を実施するとともに生涯学習に役立てる。
自己評価・課題・改善策	当館に登録しているボランティアの方々は、展示解説や体験授業・見学会などの当館の諸活動に参加し、それらの円滑な実施を支える重要な役割を展開してくれている。 新たな人材養成の面では、ボランティア養成講座を開催し、6年度は1名のボランティアを養成した。ボランティア数は漸減の傾向を示しており、館活動の質・量の維持の面からも課題化しつつある。活動の実態を広く周知してその魅力を理解してもらうことにより、養成講座への参加者を増やしていきたい。

⑥県内博物館施設との連携

A. 連携事業の実施

令和6年度目標	スタンプラリー、風土記まつり等の実施により、県立博物館4館で連携事業を実施する。
自己評価・課題・改善策	風土記まつりは、参加団体の増加により、規模を拡大して開催することができた。県立博物館、県立近代美術館、県世界遺産センター、(公財)和歌山県文化財センターとともに、県内の社会教育施設、福祉作業所の計12団体と連携する場をつくることができた。

⑦県民ニーズに即した運営

A. 入館料以外のその他の収入

令和6年度目標	前年度比5%増(3,410千円)を目指す。
自己評価・課題・改善策	図録販売のほか、出前授業の実施及び勾玉づくり・埴輪づくり体験キット販売をおこない、3,389千円(前年度比0.7%減)の収入を確保した。

B. 上記結果を受けた運営

令和6年度目標	上記結果及びアンケート等を分析し県民ニーズに即した運営となるよう検討する。
自己評価・課題・改善策	集客力の高い体験学習イベントにおける環境改善を図るとともに、申込状況、定員充足率、アンケートにおける参加回数、感想などの情報を分析し、新規参加者獲得に向けたイベント内容の充実・

	<p>名称変更や、申込方法の先着順から抽選に変更など各イベントの運営方法の検討をおこなった。また、SNS での発信頻度を増加してリアルタイムの情報の周知を図っている。</p>
--	---

## 5. 博物館の運営

<p>館長による所見</p>	<p>館内の博物館活動の充実と来園者・来館者の安全で快適な利用を目的として、防災訓練や職員研修により職員の資質向上に努めている。園内の維持管理面では、一年を通して計画的な環境維持の作業を行っており、便益施設などの点検も行っている。ただし6年度においては、過年度の点検時の指摘事項に対応しないままに停電事故を起こし、保守管理と職員間の情報共有に課題が指摘された。</p> <p>広報面では、ホームページを適宜更新して博物館活動の情報を周知するとともに、SNS を積極的に活用して即時的な発信を強化している。また、多数の参加が見込まれるイベントや特別展、企画展を中心に記者クラブへ資料提供をおこなっている。夏休み前には夏休み期間中のイベントチラシを県内の全小中学校に送付し、生徒全員への配布を依頼しているが、こうした周知方法は来館者の増加に大きな効果が認められた。</p> <p>これらの広報及び情報発信が、園内利用者数が前年度をやや下回ったのに対して、入館者やイベントの参加者数は前年度を上回るという結果につながっていると受け止めている。今後も様々な工夫をしながら博物館活動とその情報発信を続けていく必要がある。</p> <p>運営にかかわる文化財の活用面では、民家の修繕と活用が一つの課題であるが、民家にだけ目を向けるのではなく、博物館と特別史跡の古墳群及び重要文化財・県指定文化財の民家を総合的に活用する方策として取り組む中で方策を検討しなければならない。もちろん総合的な活用には、それを下支えする研究機能の充実や、教育普及活動の充実が必要であり、それを実現できる人員体制のあり方も課題であると認識している。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>博物館の運営について前向きに取り組まれており、評価する。特に、講演会や体験学習の実施が利用者の満足度に大きな効果を発揮しており、高く評価される。</p> <p>一方、園内の利用に関しては、前述した管理用道路の劣化が快適な散策等の障害となっている可能性も推測される。</p> <p>移築民家の活用については、文化財としての価値を損なわない範囲で新しい手法に挑戦する段階かもしれない。他県の風土記の丘などの事例調査・情報収集に基づく方法の検討が必要と考える。</p> <p>広報については、SNS を使った配信を積極的におこなっている点も評価したい。ただし、紙媒体と SNS による情報発信などの効</p>

	<p>果の分析が必要である。さらに、マスコミ対応に十分配慮した積極的な運営に期待したい。</p> <p>なお、利用者数は、活用を判断する目安にはなるが、数字にとらわれることなく質の高い活動を目指していただきたい。</p> <p>職員研修について、職員の参加は重要なことではあるが、参加者による情報共有の機会が適切に確保できているかが気になるところである。</p>
--	---

①組織・人員

A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等及び同体制についての日常的な取り組み

令和6年度目標	紀伊風土記の丘の防災計画指針・紀伊風土記の丘暴漢等侵入者対応指針について、職員全体で読み合わせを行い、役割分担等を確認する。また、防災訓練等を行う。
自己評価・課題・改善策	当館における「自衛消防組織」及び「暴漢等侵入者対応組織」のマニュアルを作成し職員に役割分担の確認を行った。文化財防火デーでは大規模に防火訓練を行い、有事の際の役割、行動に係る訓練を行った。

B. 個人情報の適切な保護・データ管理

令和6年度目標	和歌山県個人情報保護条例に基づいて行う。
自己評価・課題・改善策	和歌山県個人情報保護条例に基づいて実施した。

C. 館内外の研修に対する職員の参加体制及び参加実績

令和6年度目標	職員に可能な限り受講を奨励し、研鑽を積む。必要な情報は全員参加の館内研修や月例会で共有する。
自己評価・課題・改善策	職員を対象に、教育庁人権研修を行った。また、和歌山県博物館協議会との共催により、県の博物館施設関係者や市町の社会教育関係者を対象に研修を開催した。文化庁主催の文化財保護行政講座や和歌山県教育庁主催担当者会議などに出席した。

②県民ニーズに即した運営

A. 園内利用者数：当該年度の利用者数

令和6年度目標	前年度以上（17万6千人）を目指す。
自己評価・課題・改善策	園内利用者数は、170,504人（前年度比：5,520人減・96.8%）である。入館者数は増加しているものの、園内利用者数は減少した。今後も魅力ある史跡整備、広報に努める。

B. 民家利用件数：当該年度の利用件数

令和6年度目標	受け入れ可能な環境を整え、適切な利用目的の申請があった場合、許可する。利用件数、新型コロナウイルス感染拡大前の水準(6件)を目指す。
自己評価・課題・改善策	職員による日常的な目視点検及び必要に応じて修繕を継続実施した。利用件数は5件(前年度5件)であり、民家を活用した昔ばなしやコンサート開催に活用された。今後は、新規目的による利用件数の増加に努める。

### ③施設設備の維持管理

#### A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、改修や修繕、衛生管理

令和6年度目標	建築・設備などの定期点検を実施、改修等は緊急性を考慮し予算内で実施する。
自己評価・課題・改善策	日常的に職員による施設の目視点検を行い、日誌に記録している。令和6年度は、建築基準法や消防法に基づく定期点検業務を実施した。しかし、昨年度指摘の電気設備の修繕が遅れ、1月に発生した漏電事故に際して、周辺約50世帯への波及事故となった。今後は再発防止のために保守管理の徹底と情報共有に努める必要がある。

#### B. 園内の日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

令和6年度目標	館の業務員により計画的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施する。
自己評価・課題・改善策	日常的に職員による園内の目視点検及び必要に応じて修繕を行った。

#### C. 民家の日常的なメンテナンス等による施設の保守管理、毀損個所の修繕や予防措置

令和6年度目標	館の業務員により日常的なメンテナンスを毎日実施。修繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。毎日業務日誌をつけて確認をする。
自己評価・課題・改善策	今後も引き続き、来園者、来館者に安心・安全に利用いただくため、毎日職員による目視点検を行い、日誌に記録。必要に応じて設備等の修繕等、整備を行った。令和6年度は柳川家奥座敷の床の間の修繕を行った。 旧谷村家は、過年度の台風により棟飾りが破損するなど、とくに屋根部の損傷が進んでいる。令和7年度に修繕を実施する予定でいる。

#### D. 新館建設計画・各民家の保存活用計画

令和6年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設実施設計を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を検討する。
---------	--

自己評価・課題・改善策	移築民家については「移築民家等保存活用方針」（平成 27 年度策定）に基づき活用を実施しているが、新館開館に伴い博物館と特別史跡、民家を包括した活用方針を検討しており、令和 8 年度改定予定である特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画にもその基本方針を反映させていく。
-------------	--

#### ④快適性の向上

##### A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応

令和 6 年度目標	バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等への対応を検討する。特に障害者差別解消法施行に伴い、職場研修を行うとともに、ハード面、ソフト面において可能な範囲で合理的配慮を行う。
自己評価・課題・改善策	現資料館では、来館者へ合理的配慮を心がけ対応した。また、バリアフリー及び合理的配慮に係る職員研修を実施した。

##### B. 快適性の向上について上記以外の整備

令和 6 年度目標	県民が園内全体において快適に利用し、心身ともに満足してもらえるよう取り組む。
自己評価・課題・改善策	園路等公園としての整備だけでなく、平成 28 年に特別史跡に追加指定された天王塚古墳の墳丘整備や竪穴系石室の不具合解消及び活用を図るための再整備等、公開地区の古墳整備についても積極的に取り組み来園者の満足が得られるよう事業を進めている。

#### ⑤民家

##### A. 計画的な公開

令和 6 年度目標	恒常的に清掃を行い、案内資料をおいて、引き続き入りやすい落ち着いた空間としての状態を保つ。
自己評価・課題・改善策	日常的な管理及び公開を行っているほか、民家ガイドツアーを 1 回開催した。ガイドツアーへの参加者増への対策が課題である。他団体による民家利用として昔話とわらべ歌実演、コンサートが計 5 回実施され、文化振興関連事業で活用されている。

##### B. 建物の個性・魅力をひきたてる活用

令和 6 年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設実施設計を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を検討する。
-----------	--

自己評価・課題・改善策	移築民家については「移築民家等保存活用方針」（平成 27 年度策定）に基づき活用を実施しているが、新館開館に伴い博物館と特別史跡、民家を包括した活用方針を検討しており、令和 8 年度改定予定である特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画にもその基本方針を反映させてく。
-------------	---

#### ⑥広報・情報発信等

##### A. 県民からの直接的情報提供：問い合わせ（電話、来館等）に対する適切な対応

令和 6 年度目標	相談者個々に対して丁寧に適切な対応をすることを職員一同確認する。
自己評価・課題・改善策	個々の問合せを適切に対応し、特に問題はなかった。今後も相談内容の共有・蓄積をし、引き続きこれまで同様丁寧な対応を行う。

##### B. メディアへの情報発信

令和 6 年度目標	広く県民に周知することにより、多数の参加者が見込まれるイベントについて記者クラブへ資料提供を行う。特別展、企画展やイベントについて、直接メディアに出向いて広報する。
自己評価・課題・改善策	各イベントを報道関係に資料提供した結果、テレビ、新聞等で 18 回取り上げられた。

##### C. ホームページによる広報：ホームページアクセス件数、更新回数

令和 6 年度目標	ホームページ及び Facebook の閲覧数ともに前年度を上回るよう、即時的にイベントの情報や結果、満足度を広報するなど内容の充実化を図る。ホームページの充実のために、動画公開を進める。
自己評価・課題・改善策	ホームページの表示回数は 141,832（前年度 137,689）、アクティブユーザー数は 36,650（前年度 34,308）と、前年度を上回った。ホームページ及び Facebook を含む SNS を活用した広報について、イベント及び展示情報、園内の昆虫・植物などの情報発信を積極的に実施しており、X の投稿（重要文化財の情報）では 1 万件を超える表示を得るなど、一定の効果が認められた。展示及び教育普及に係る新規の動画公開は、令和 6 年度は実施することができなかったことから、令和 7 年度の公開を検討する。

##### D. 広報印刷物の制作：ポスター、チラシ等の情報提供、広報活動

令和 6 年度目標	イベントガイド、特別展ポスター・チラシを作成し、1,500 件以上に配布する。その他の展示・イベント等はプリンター・輪転機により作成する。市町村教育委員会校長会に出向いて直接校長へアピールするとともに、必要に応じて和歌山市及び近隣市町村内小中
-----------	---

	学生全員にチラシを配布する。
自己評価・課題・改善策	イベントガイド等チラシ・ポスター作成を行い、前年度とほぼ同数を和歌山市及び近隣市町村内小中学校にチラシを配布するなどして、周知を図った。また、夏休みのイベントチラシについては、県内全小中学生全員に約 70,000 枚を配布した。遠方からの参加者もあり一定の効果が認められた。さらに、前年度と同様に市町村校長会にて、当館実施イベントの説明を実施した。

E. 使命、目標、計画等の公開

令和 6 年度目標	ホームページに公開する。
自己評価・課題・改善策	ホームページで博物館評価制度、紀伊風土記の丘年報第 51 号及び紀伊風土記の丘紀要第 13 号を公開した。